

2021年10月20日
一般社団法人Jミルク

生乳需給緩和で、年末年始に緊急の取り組み 26、27日に業界関係者向け説明会

長期化する新型コロナウイルス感染拡大の影響などから、この年末年始を中心に、生乳の需給が例年以上に大きく緩和に向かう可能性が高まっています。このため、Jミルクは乳業者の拠出を受け実施している「酪農乳業産業基盤強化特別対策事業」に新メニュー「新型コロナ緊急対策事業」を追加するのをはじめ、酪農乳業界の他団体とも連携しながら、行き場のない「処理不可能乳」を発生させないための緊急的・業界一体的な取り組みを実施することとしました。

ついては、業界関係者にこの取り組みの周知を図るため、26、27の両日にオンライン説明会を開催いたします。

1. 例年以上の需給緩和が予想される背景について

これまで業界全体で生乳生産基盤強化に取り組んできた結果、生産は好調に推移し、本年度トータルで前年度比102%台と、3年連続の増産が見込まれています。一方、需要については、10月1日以降、緊急事態宣言などの措置が解除され、業務用需要の一定程度の回復が期待されるようですが、インバウンド需要が失われたままで、家庭内需要についても昨年のような巣ごもり需要は見られず全体として低調に推移しています。

こうした中、年末年始は飲用牛乳の不需要期である上、一部量販店での正月三が日の休業や学校給食の休止が重なるタイミングであることから、生乳需給は大幅に緩和する可能性が例年以上に高まっています。

(詳細は、10月1日に公表した「2021年度の生乳及び牛乳乳製品の需給見通しと課題について」<https://www.j-milk.jp/gyokai/jukyuu/h4ogb40000007pyb.html>にも記載しています)

2. 緊急的な取り組みについて

Jミルクでは、「酪農乳業産業基盤強化特別対策事業」に「新型コロナ緊急対策事業」を追加し、一時的な生乳出荷抑制対策と消費促進対策を実施します。

また、次のような事項について業界全体としての取り組みを呼び掛けていきます。

- ・酪農家、乳業者など業界関係者自らによる牛乳利用拡大および地域、家庭など周

辺への働き掛け

- ・一時的な生乳出荷抑制（生産者サイド）
- ・製品における生乳使用率の引き上げ、乳製品工場のフル稼働、積極的な販促活動（乳業者サイド）

3. 説明会について

次の要領で開催します。

(1) 日程

- ・第1回 10月26日（火） 14:00～15:30
- ・第2回 10月27日（水） 14:00～15:30

(2) 開催方法

Zoomによるオンライン開催

(3) 参加申し込み

Google フォームから、10月25日（月）までにお申し込みください。

<https://forms.gle/nMFtxSEzYGJvo1bd9>

※詳細はJミルクホームページ（<https://j-milk.jp/news/2021kibaninfo.html>）に掲載しています。

(4) 参加対象者

- ・会員・賛助会員
- ・会員・賛助会員に関連する酪農乳業関係者（酪農家、乳業者、牛乳販売店など）
- ・行政および酪農・畜産関連団体
- ・報道関係 など

以 上

【本件に関するお問い合わせ先】

一般社団法人Jミルク

生産流通グループ、コミュニケーショングループ

東京都千代田区神田駿河台 2-1-20 お茶の水ユニオンビル 5階

電話：03-5577-7493、7494